2010年5月20日

農学部 教職員 各位

生物環境学科
学科代表 小沢 亙

早尻正宏先生&渡邊一哉先生 Welcome Lecture 開催のご案内

生物環境学科森林環境資源学講座に早尻正宏先生（3月31日付け）、地域環境科学講座に渡邊一哉先生（5月14日付け）の2名の先生が着任されました。

多くの皆さんに先生方を知っていただく機会として、以下のような講義を企画いたしましたので、奮ってご参加ください。

== Welcome Lecture ==

日時 5月27日（木）16:00~17:00

場所 301 講義室

自己紹介と内容紹介

早尻正宏 先生

広島県呉市生まれ、学位取得まで札幌市で過ごし、県庁、大学、シンクタンクを経て着任しました。不安定就業者層の労働問題の研究から農学の世界に遅れて入った私にとって、農学部という教育・研究環境は「異質」で、今なお試行錯誤の連続です。林業労働者の教育訓練をテーマにした学位論文を提出後、非営利・協同組織論（森林組合の合併問題）に関心を広げ、最近では、住民自治に着目して森林地域の内発的発展に関する研究を進めています。根底には、「労働」「教育」「協同」の視点から地域資源管理の再構築を考えたいという思いがあります。今回は、前職のシンクタンクでの実践を中心に、森林文化の視点を交えながら、過疎山村の地域再生に関する話題を提供します。

渡邊一哉 先生

鶴岡市で河川環境学に出会って15年が経ちます。陸水域での地域生態資源を対象に、ヒトの利用の実態把握と、ヒトがもたらす過剰な負荷の軽減手法に関する研究を行っております。渓流域、水田水域などの中流域、そして沿岸域に至るまで、さまざまな流域について、日本だけでなくタイ・ラオス、インドなどに調査域を広げてきました。

対象とする地域でのヒト・生きものが織り成す相互作用の面白さは、今も私の足をフィールドへと向かわせますし、様々な分野の研究者との協働は、今も研究課題の多面性と奥深さを気づかせてくれています。

庄内を源流とする両側回遊型研究者が、これまで泳ぎ渡ってきたフィールドで何を見て何を考えてきたのかを『水魚の交わり』としてお話させていただきたいと思っております。